

種名	<p style="text-align: center;"><u>セグロカモメ</u></p> <p style="text-align: center;"><u>Larus argentatus</u></p> 												
分類	チドリ目 カモメ科												
特徴	翼の上面が青灰色で先端に黒と白の模様がある大形カモメ類。ユーラシア大陸の温帯から寒帯、北米大陸の亜寒帯から寒帯で広く繁殖し、日本には冬鳥として渡来する。西南日本では冬期に数多い大形カモメ類である。												
生活	越冬期には群れで生活し、他のカモメ類と混ざった数十羽から数百羽の群れが内湾、港、河口などで見られる。特に漁港や水産加工場のある所には多くの個体が集まり、魚のアラなどを食べて生活をしている。小群が船のあとについて飛び、船から捨てられる残飯を狙うこともある。冬期の食性は基本的には腐肉食性である。断崖の岩棚や水辺に近い草地にコロニーを作って繁殖する。孵化した雛は親鳥のくちばしの赤い斑点をつつき、その刺激で餌を吐き戻す。												
声	オオセグロカモメに似た「クワオー」とか「ミャオー」という声で鳴くが、オオセグロカモメの声より少し甲高く、また細いように思われる。そのほか「クワックワックワッ」とか「グルルル」という声も出す。												
見分け方	翼はカモメと同じ模様だが、セグロカモメの方が全体に大きく、くちばしは太く下くちばしに赤い斑点がある。												
時期	(月)	1	2	3	4	5	-	-	-	9	10	11	12
その他	全長(L)60cm 翼開長(W)139cm												
参考文献：山溪カラー名鑑 日本の野鳥													